

株式会社C I 東海

長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務規程

# 株式会社 CI 東海

## 長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務規程

### 目次

#### 第1章 総則

第1条 (趣旨)

第2条 (基本方針)

第3条 (技術的審査の業務を行う時間、休日、事務所の所在地及び業務区域)

第4条 (技術的審査の業務を行う範囲)

#### 第2章 技術的審査の業務の実施方法

第1節 依頼手続き

第5条 (所管行政庁に認定申請する前に行う技術的審査の依頼)

第6条 (適合証が交付された後に行う計画の変更に係る技術的審査の依頼)

第7条 (技術的審査の依頼の受理及び契約)

第8条 (技術的審査の依頼の取り下げ)

第9条 (所管行政庁から依頼される技術的審査)

第2節 技術的審査の実施方法

第10条 (技術的審査の実施方法)

第11条 (適合証の交付等)

#### 第3章 技術的審査料金

第12条 (技術的審査料金)

第13条 (審査料金の減額等)

第14条 (審査料金の返還)

#### 第4章 審査員

第15条 (審査員)

第16条 (秘密保持義務)

#### 第5章 技術的審査の業務に関する公正の確保

第17条 (技術的審査の業務に関する公正の確保)

#### 第6章 雑則

第18条 (帳簿の作成及び保存方法)

第19条 (帳簿及び書類の保存期間)

第20条 (帳簿及び書類の保存及び管理方法)

第21条 (事前相談)

第22条 (電子情報処理組織に係る情報の保護)

別表「適合証交付番号の付番方法」

別記様式1号「長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査 依頼書」

別記様式2号「長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査 適合証」

別記様式3号「長期優良住宅建築等計画の変更に係る技術的審査 依頼書」

別記様式4号「長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査 適合証 (変更)」

別記様式5号「長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査に適合しない旨の通知書」

別記様式6号「長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査 取り下げ届」

CI 東海 - 長 - 1号様式「引受承諾書」

別紙「長期優良住宅建築等計画に係る技術的業務約款」

## 第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 この技術的審査業務規程（以下「規程」という。）は、株式会社C I 東海（以下「機関」という。）が、長期優良住宅の普及の促進に関する法律（平成 20 年法律第 87 号。以下「法」という。）第 5 条第 1 項の長期優良住宅建築等計画の法第 6 条第 1 項に定める認定基準への適合に係る技術的審査（以下「技術的審査」という。）の実施について必要な事項を定めるものである。

(基本方針)

第2条 技術的審査は、認定基準（技術的審査の対象となる住宅が存する所管行政庁の定める基準を含む。）への適合性について、公正かつ適確に実施するものとする。

(技術的審査の業務を行う時間・休日、事務所の所在地及び業務区域)

第3条 技術的審査の業務を行う時間・休日、事務所の所在地及び業務を行う区域については、株式会社C I 東海評価業務規程によるものとする。ただし、業務区域については設計住宅性能評価の業務を行う区域とする。

(技術的審査の業務を行う範囲)

第4条 機関は、株式会社C I 東海評価業務規程に記載されている住宅性能評価を行う住宅の種類及び評価の業務を行う範囲について技術的審査の業務を行うものとする。  
2 機関は、関係所管行政庁が定める区分のものについて技術的審査の業務を行うものとする。

## 第2章 技術的審査の業務の実施方法

### 第1節 依頼手続き

(所管行政庁に認定申請する前に行う技術的審査の依頼)

第5条 所管行政庁に認定を申請する前に技術的審査を依頼しようとする者（以下「依頼者」という。）又は技術的審査の手続きに関する一切の権限を依頼者から委任された者（以下「代理者」という。）は、機関に対し、次の各号に掲げる図書（以下「技術的審査用提出図書」という。）を、正副 3 部提出しなければならないものとする。

(1) 別記様式 1 号の長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査依頼書（以下「依頼書」という。）  
(2) 長期優良住宅の普及の促進に関する法律施行規則（平成 20 年国土交通省令第 3 号。以下「規則」という。）第 2 条第 1 項で定める認定申請書（第一号様式）

(3) 技術的審査の対象となる住宅の設計図書等（規則第 2 条第 1 項の表に定める図書その他機関が技術的審査のために必要と認める図書（以下「技術的審査添付図書等」という。）のうち、技術的審査の依頼がされた認定基準の区分に応じ必要となる設計図書等。

2 設計住宅性能評価を同一の機関に同時に申請する場合には、技術的審査添付図書等のうち設計住宅性能評価添付図書と重複するものは省略することができる。

3 設計住宅性能評価書が既に交付されている住宅について技術的審査の依頼をする場合には、設計住宅性能評価書又はその写しの添付があれば、技術的審査添付図書等のうち設計住宅性能評価添付図書と重複し、かつ、評価方法基準（平成 13 年国土交通省告示第 1347 号）に定められた基準以外の認定基準の審査に要しないものは省略することができる。

4 第 2 項及び第 3 項の場合における設計住宅性能評価添付図書は、技術的審査添付図書等として扱う。

(適合証が交付された後に行う計画の変更に係る技術的審査の依頼)

第6条 依頼者は、第 11 条第 1 項の適合証の交付を受けた長期優良住宅建築等計画を変更する場合において、機関に変更に係る技術的審査の依頼をすることができる。この場合、依頼者は機関に対し、次の各号（当機関において直前の技術的審査を行っている場合にあっては、(3)を除く。）に掲げる図書を、正副 3 部提出しなければならないものとする。

(1) 別記様式 3 号の長期優良住宅建築等計画の変更に係る技術的審査依頼書

(2) 技術的審査添付図書等のうち変更に係るもの

(3) 直前の技術的審査の結果が記載された適合証又はその写し

(技術的審査の依頼の受理及び契約)

第7条 機関は、第5条又は第6条の技術的審査の依頼があったときは、次の事項を確認し、当該技術的審査用提出図書を受理する。

- (1) 技術的審査を依頼された住宅の所在地が、第3条の業務を行う区域内であること。
- (2) 技術的審査用提出図書に形式上の不備がないこと。
- (3) 技術的審査用提出図書に記載すべき事項の記載が不十分でないこと。
- (4) 技術的審査用提出図書に記載された内容に明らかな虚偽がないこと。

2 機関は、前項の確認により、技術的審査用提出図書が同項各号のいずれかに該当すると認める場合においては、その補正を求めるものとする。

3 依頼者が前項の求めに応じない場合又は十分な補正を行わない場合においては、機関は、受理できない理由を明らかにするとともに、依頼者に技術的審査用提出図書を返却する。

4 機関は、第1項により技術的審査の依頼を受理した場合においては、依頼者に引受承諾書(CI東海一長一1号様式)を交付する。この場合、依頼者と機関は別紙技術的審査業務約款に基づき契約を締結したものとする。

5 前項の技術的審査業務約款又は引受承諾書には、少なくとも次の各号に掲げる事項について明記するものとする。

- (1) 依頼者は、提出された書類のみでは技術的審査を行うことが困難であると機関が認めて請求した場合は、技術的審査を行うのに必要な追加書類を双方合意の上定めた期日までに機関に提出しなければならない旨の規定
- (2) 依頼者は、機関が認定基準への適合に関する是正事項を指摘した場合は、双方合意の上定めた期日までに当該部分の技術的審査用提出図書の修正その他必要な措置をとらなければならない旨の規定
- (3) 別記様式2号の適合証の交付前までに、依頼者の都合により依頼内容を変更する場合は、依頼者は、双方合意の上定めた期日までに機関に変更部分の技術的審査用提出図書を提出しなければならない旨の規定及びその変更が大幅なものと機関が認める場合にあっては、依頼者は、当初の依頼内容に係る依頼を取下げ、別に改めて技術的審査を依頼しなければならない旨の規定
- (4) 機関は、適合証を交付し、又は適合証を交付できない旨を通知する期日(以下「業務期日」という。)を定める旨の規定
- (5) 機関は、依頼者が(1)から(3)までの規定に反した場合には、前号の業務期日を変更することができる旨の規定
- (6) 機関は、不可抗力によって、業務期日までに適合証を交付することができない場合には、依頼者に対してその理由を明示の上、必要と認められる業務期日の延期を請求することができる旨の規定
- (7) 依頼者が、その理由を明示の上、機関に書面をもって業務期日の延期を申し出た場合でその理由が正当であると機関が認めるときは、機関は業務期日の延期をすることができる旨の規定
- (8) 機関は、依頼者の責めに帰すべき事由により業務期日までに適合証を交付することができないときは、契約を解除することができる旨の規定
- (9) 機関は、所管行政庁の求めに応じ、技術的審査の内容について、所管行政庁に説明することができる旨の規定

(技術的審査の依頼の取り下げ)

第8条 依頼者は、前条の適合証の交付前に技術的審査の依頼を取り下げる場合においては、その旨を記載した取り下げ届(別記様式6号)を機関に提出する。

2 前項の場合においては、機関は、技術的審査の業務を中止し、技術的審査用提出図書を依頼者に返却する。

(所管行政庁から依頼される技術的審査)

第9条 所管行政庁から依頼がある場合の技術的審査においては、所管行政庁との契約に基づき

行うものとする。

## 第2節 技術的審査の実施方法

(技術的審査の実施方法)

第10条 機関は、技術的審査の依頼を受理したときは、速やかに、第15条に定める審査員に技術的審査を実施させるものとする。

2 審査員は次に定める方法により技術的審査を行う。

(1) 技術的審査用提出図書をもって技術的審査を行う。

(2) 技術的審査を依頼された長期優良住宅建築等計画の全部又は一部が認定基準に適合しているかどうかを確認する。この場合、地震保険の割引のために地震に対する安全性の確保に関して免震建築物又は耐震等級3に係る適合審査の依頼があった際には、当該基準に適合しているかについて審査を行う。

(3) 技術的審査を行うに際し、書類の記載事項に疑義があり、提出された書類のみでは当該住宅が認定基準に適合しているかどうかの判断ができないと認めるときは、追加の書類を求めて審査を行う。

3 審査員は、技術的審査上必要があるときは、技術的審査用提出図書に関し依頼者に説明を求めるものとする。

(適合証の交付等)

第11条 機関は、審査員の技術的審査の結果、依頼に係る長期優良住宅建築等計画の全部又は一部が認定基準に適合すると認めたときは、別記様式2号の適合証(第6条による依頼の場合は別記様式4号の適合証(変更))を依頼者に交付するものとする。

2 前項の適合証の次の各号に掲げる記の部分には、それぞれ当該各号に定める事項を記載するものとする。

(1) 適合証交付番号 別表「適合証交付番号の付番方法」に基づき付番された適合証交付番号

(2) 適合の範囲 技術的審査を行った認定基準の区分

(3) (2)に関連して免震建築物又は耐震等級3に係る適合審査の依頼があった際に、当該基準に適合している場合はその旨を明示するものとする。

3 機関は審査員の技術的審査の結果、依頼に係る長期優良住宅建築等計画の全部又は一部が認定基準に適合せず、かつ是正される見込みがないと認めて技術的審査をしないときは、その旨の通知書(別記様式5号)を依頼者に交付するものとする。

## 第3章 技術的審査料金

(技術的審査料金)

第12条 機関は、技術的審査の実施に関し、別に機関において定める技術的審査手数料(以下「審査料金」という。)を徴収することができる。

2 依頼者は、技術的審査引受承諾書の交付時に、審査料金を現金により納入するものとする。

ただし、交付時に、審査料金を銀行振込により納入したことを確認できる場合、又は審査料金の納付等について、別途機関が定める方法による場合は、この限りではない。

3 前項の振込納入に要する費用は依頼者の負担とする。

4 所管行政庁からの依頼による場合の技術的審査料金については、所管行政庁との契約に基づくものとする。

(審査料金の減額等)

第13条 機関は、技術的審査が効率的に実施できる場合にあつては、実費を勘案し審査料金を減額することができるものとする。

2 機関は、審査料金の免除又は減免することが適切であると判断した場合は、審査料金の全部若しくは一部を免除することができるものとする。

(審査料金の返還)

第14条 収納した審査料金は返還しない。ただし、機関の責に帰すべき事由により技術的審査が実施できなかった場合には、依頼者に返還する。

#### 第4章 審査員

(審査員)

第15条 機関は、住宅の品質確保の促進等に関する法律（平成11年法律第81号。以下「住宅品質確保促進法」という。）第13条に定める評価員（機関の職員以外に委嘱する評価員を含む。）で、かつ、一般社団法人住宅性能評価・表示協会（以下「協会」という。）が実施する技術的審査に関する研修を受講し、協会に登録された者（以下「審査員」という。）に技術的審査を行わせるものとする。

2 審査員が、技術的審査を行う住宅の範囲は、住宅品質確保促進法別表中欄に掲げる要件に応じ、同表上欄に掲げる住宅の区分とする。

3 法第6条第1項第3号にいう地域における居住環境の維持及び向上に関する技術的審査については、地域における居住環境にかかる制限への適合を審査するものであることから、指定確認検査機関の確認検査員による審査補助を得て行うものとする。

(秘密保持義務)

第16条 機関の役員及びその職員（審査員を含む。）並びにこれらの者であった者は、技術的審査の業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。

#### 第5章 技術的審査の業務に関する公正の確保

(技術的審査の業務に関する公正の確保)

第17条 機関は、機関の役員又はその職員（審査員を含む。）が、技術的審査の依頼を自ら行った場合又は代理人として技術的審査の依頼を行った場合は、当該住宅に係る技術的審査を行わないものとする。

2 機関は、機関の役員又はその職員（審査員を含む。）が、技術的審査の依頼に係る住宅について次のいずれかに掲げる業務を行った場合は、当該住宅に係る技術的審査を行わないものとする。

- (1) 設計に関する業務
- (2) 販売又は販売の代理若しくは媒介に関する業務
- (3) 建設工事に関する業務
- (4) 工事監理に関する業務

3 機関は、その役員又は職員（過去2年間に役員又は職員であった者を含む。）のいずれかが当該機関の役員又は職員（審査員を含む。）である者の行為が、次のいずれかに該当する場合（当該役員又は職員（審査員を含む。）が当該依頼に係る技術的審査の業務を行う場合に限る。）は、当該依頼に係る技術的審査を行わないものとする。

- (1) 技術的審査の依頼を自ら行った場合又は代理人として技術的審査の依頼を行った場合
- (2) 技術的審査の依頼に係る住宅について、前項の(1)から(4)までのいずれかに掲げる業務を行った場合

#### 第6章 雑 則

(帳簿の作成及び保存方法)

第18条 機関は、次の(1)から(9)までに掲げる事項を記載した技術的審査業務管理帳簿（以下「帳簿」という。）を作成し事務所に備え付け、施錠のできる室又はロッカー等において、個人情報及び秘密情報が漏れることがなく、かつ、技術的審査業務以外の目的で複製、利用等がされない、確実な方法で保存するものとする。

- (1) 依頼者の氏名又は名称及び住所又は主たる事務所の所在地
- (2) 技術的審査業務の対象となる住宅の名称
- (3) 技術的審査業務の対象となる住宅の所在地

- (4) 技術的審査の依頼を受けた年月日
  - (5) 技術的審査を行った審査員の氏名
  - (6) 技術的審査料金の金額
  - (7) 第 11 条第 1 項の適合証の交付番号
  - (8) 第 11 条第 1 項の適合証の交付を行った年月日又は第 11 条第 3 項の通知書の交付を行った年月日
  - (9) 技術的審査を行った認定基準の区分
- 2 前項の保存は、帳簿を電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録し、当該記録を必要に応じ電子計算機その他の機械を用いて明確に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスクを保存する方法にて行うことができる。
- 3 技術的審査の依頼と設計住宅性能評価の申請を同一の機関にする場合は、第 1 項の記載事項で住宅性能評価の帳簿と重複した内容については、記載を省略とすることができる。

(帳簿及び書類の保存期間)

第 19 条 帳簿及び書類の保存期間は、次の各号に掲げる文書の区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

- (1) 第 18 条第 1 項の帳簿 技術的審査の業務を廃止するまで
- (2) 技術的審査用提出図書（所管行政庁との契約により保存不要な場合を除く。）及び適合証の写し 適合証の交付を行った日の属する年度から 5 事業年度

(帳簿及び書類の保存及び管理方法)

第 20 条 前条各号に掲げる文書の保存は、技術的審査中にあつては技術的審査のため特に必要がある場合を除き事務所内において、技術的審査終了後は施錠できる室、ロッカー等において、確実かつ秘密の漏れることのない方法で行う。

- 2 前項の保存は、前条(1)に規定する帳簿への記載事項及び(2)に規定する書類が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスク等に記録され、必要に応じ電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスク等の保存にて行うことができる。

(事前相談)

第 21 条 依頼者は、技術的審査の依頼に先立ち、機関に相談をすることができる。この場合において、機関は、誠実かつ公正に対応するものとする。

(電子情報処理組織に係る情報の保護)

第 22 条 機関は、電子情報処理組織による依頼の受付及び図書の交付を行う場合にあつては、情報の保護に係る措置について別に定めることとする。

- (附則) この技術的審査業務規程は、平成 21 年 6 月 2 日より施行する。
- (附則) この技術的審査業務規程は、平成 22 年 1 月 12 日より施行する。
- (附則) この技術的審査業務規程は、平成 22 年 6 月 25 日より施行する。
- (附則) この技術的審査業務規程は、平成 23 年 4 月 1 日より施行する。
- (附則) この技術的審査業務規程は、平成 24 年 2 月 1 日より施行する。
- (附則) この技術的審査業務規程は、平成 28 年 4 月 1 日より施行する。

## 別表

### 「適合証交付番号の付番方法」

交付番号は、16桁の数字を用い、次のとおり表すものとする。

『○○○-○○-○○○○-○-○-○○○○』

1～3桁目	登録住宅性能評価機関番号（国土交通省登録番号とは異なる）
4～5桁目	登録住宅性能評価機関の事務所毎に付する番号
6～9桁目	適合証交付日の西暦
10桁目	1：新築、2：増築・改築
11桁目	1：一戸建ての住宅 2：共同住宅等
12～16桁目	通し番号（11桁目までの数字の並びの別に応じ、00001から順に付するものとする。）



## 長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査依頼書

( 新 築 / 増築・改築 )

平成 年 月 日

株式会社C I 東海  
代表取締役

様

依頼者の住所又は  
主たる事務所の所在地  
依頼者の氏名又は名称

印

代理者の住所又は  
主たる事務所の所在地  
代理者の氏名又は名称

印

長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務規程に基づき、長期優良住宅の普及の促進に関する法律第6条第1項の認定基準のうち、以下に掲げる基準への適合性について技術的審査を依頼します。この依頼書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

## 記

## 【技術的審査を依頼する認定基準の区分】

- 法第6条第1項第1号関係（長期使用構造等）
- 法第2条第4項第1号イ関係（構造の腐食、腐朽及び摩損の防止）
- 法第2条第4項第1号ロ関係（地震に対する安全性の確保）  
（免震建築物又は耐震等級3に係る適合審査を受けようとする場合）
- 免震建築物  耐震等級3）
- 法第2条第4項第2号関係（構造及び設備の変更を容易にするための措置）
- 法第2条第4項第3号関係（維持保全を容易にするための措置）
- 法第2条第4項第4号関係（高齢者の利用上の利便性及び安全性）
- 法第2条第4項第4号関係（エネルギーの使用の効率性）
- 法第6条第1項第2号関係（住宅の規模）
- 法第6条第1項第3号関係（居住環境の維持及び向上への配慮）
- 法第6条第1項第4号イ及びロ又は同項第5号イ関係（建築後の住宅の維持保全）
- 法第6条第1項第4号ハ又は同項第5号ロ関係（資金計画）

【設計住宅性能評価申請の有無】  有（同一の機関 他機関）  無

【認定申請先の所管行政庁名】

【認定申請予定日】

【住宅の位置】

【住宅又は建築物の名称】

【住宅の建て方】  一戸建て住宅  共同住宅等

※受付欄	※料金欄	決済欄
平成 年 月 日		
第 号		
申請受理者印		

(注意)

1. 依頼者が法人である場合には、代表者の氏名を併せて記載してください。
2. 依頼者の氏名（法人にあってはその代表者の氏名）の記載を自署で行う場合においては、押印を省略することができます。
3. 代理者が存しない場合については、代理者の部分は空欄としてください。
4. 技術的審査を依頼する認定基準の区分については、所管行政庁が定める区分の全てを依頼することとしてください。
5. 地震に対する安全性の確保に関して免震建築物又は耐震等級3に適合することを適合証に表示することを希望する場合はいずれかを選択してください。

## 長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査

## 適合証

( 新 築 / 増築・改築 )

様

株式会社C I 東海  
代表取締役

印

長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務規程に基づき、長期優良住宅の普及の促進に関する法律第6条第1項の認定基準のうち、以下に掲げる基準に適合していることを証します。

## 記

1. 住宅の位置
2. 住宅又は建築物の名称
3. 住宅の建て方
4. 認定申請先の所管行政庁名
5. 適合することを確認した認定基準の区分
  - 法第6条第1項第1号関係 (長期使用構造等)
    - 法第2条第4項第1号イ関係 (構造の腐食、腐朽及び摩損の防止)
    - 法第2条第4項第1号ロ関係 (地震に対する安全性の確保)  
(免震建築物又は耐震等級3に適合する場合  免震建築物  耐震等級3)
    - 法第2条第4項第2号関係 (構造及び設備の変更を容易にするための措置)
    - 法第2条第4項第3号関係 (維持保全を容易にするための措置)
    - 法第2条第4項第4号関係 (高齢者の利用上の利便性及び安全性)
    - 法第2条第4項第4号関係 (エネルギーの使用の効率性)
  - 法第6条第1項第2号関係 (住宅の規模)
  - 法第6条第1項第3号関係 (居住環境の維持及び向上への配慮)
  - 法第6条第1項第4号イ及びロ又は同項第5号イ関係 (建築後の住宅の維持保全)
  - 法第6条第1項第4号ハ又は同項第5号ロ関係 (資金計画)

技術的審査依頼年月日	年 月 日
認定申請予定日	年 月 日
適合証交付年月日	年 月 日
適合証交付番号	〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇-〇-〇-〇〇〇〇〇
審査員氏名	

## 長期優良住宅建築等計画の変更に係る技術的審査依頼書

( 新 築 / 増築・改築 )

平成 年 月 日

株式会社C I 東海  
代表取締役

様

依頼者の住所又は  
主たる事務所の所在地  
依頼者の氏名又は名称

印

代理者の住所又は  
主たる事務所の所在地  
代理者の氏名又は名称

印

下記の住宅について、長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務規程第6条に基づき、変更の技術的審査を依頼します。この依頼書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

## 記

## 【計画を変更する住宅の適合証】

1. 適合証交付番号 第 号
2. 適合証交付年月日
3. 適合証を交付した者
4. 変更の概要
5. 変更の対象となる認定申請書の申請日

※受付欄	※料金欄	決済欄
平成 年 月 日		
第 号		
申請受理者印		

## (注意)

1. 依頼者が法人である場合には、代表者の氏名を併せて記載してください。
2. 依頼者の氏名（法人にあってはその代表者の氏名）の記載を自署で行う場合においては、押印を省略することができます。
3. 代理者が存しない場合については、代理者の部分は空欄としてください。

長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査

## 適合証（変更）

（新築 / 増築・改築）

様

株式会社C I 東海  
代表取締役

印

長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務規程に基づき、長期優良住宅の普及の促進に関する法律第6条第1項の認定基準のうち、以下に掲げる基準に適合していることを証します。

## 記

1. 住宅の位置
2. 住宅又は建築物の名称
3. 住宅の建て方
4. 認定申請先の所管行政庁名
5. 適合することを確認した認定基準の区分
  - 法第6条第1項第1号関係（長期使用構造等）
    - 法第2条第4項第1号イ関係（構造の腐食、腐朽及び摩損の防止）
    - 法第2条第4項第1号ロ関係（地震に対する安全性の確保）  
（免震建築物又は耐震等級3に適合する場合 免震建築物 耐震等級3）
    - 法第2条第4項第2号関係（構造及び設備の変更を容易にするための措置）
    - 法第2条第4項第3号関係（維持保全を容易にするための措置）
    - 法第2条第4項第4号関係（高齢者の利用上の利便性及び安全性）
    - 法第2条第4項第4号関係（エネルギーの使用の効率性）
  - 法第6条第1項第2号関係（住宅の規模）
  - 法第6条第1項第3号関係（居住環境の維持及び向上への配慮）
  - 法第6条第1項第4号イ及びロ又は同項第5号イ関係（建築後の住宅の維持保全）
  - 法第6条第1項第4号ハ又は同項第5号ロ関係（資金計画）

技術的審査依頼年月日	年 月 日
認定申請日	年 月 日
適合証交付年月日	年 月 日
適合証交付番号	〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇-〇-〇-〇〇〇〇〇
審査員氏名	

長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査に適合しない旨の通知書

第 号  
平成 年 月 日

様

株式会社C I 東海  
代表取締役

印

別添の長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査依頼書及びその添付図書に記載の住宅については、下記の理由により適合証を交付できませんので、長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務規程第 1 1 条第 3 項に基づき、通知書を交付します。

(理由)

長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査

取り下げ届

平成 年 月 日

株式会社C I 東海  
代表取締役

様

依頼者の住所又は  
主たる事務所の所在地  
依頼者の氏名又は名称

印

○月○日に依頼した長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査依頼につきまして、下記により  
長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務規程第 8 条第 1 項に基づき、依頼を取り下げます。

記

1. 依頼書提出日： 平成 年 月 日
2. 受付番号 :
3. 住宅の位置 :

## 長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務約款

依頼者（以下「甲」という）及び株式会社C I 東海（以下「乙」という）は、長期優良住宅の普及の促進に関する法律（以下「法」という）、同法施行令、同法施行規則並びにこれに基づく告示・命令等を遵守し、この約款（依頼書及び引受承諾書を含む。以下同じ）及び「株式会社C I 東海長期優良住宅建築等の認定に係る技術的審査業務規程」（以下「規程」という）に定められた事項を内容とする契約（以下「この契約」という）を履行する。

（甲の責務）

第1条 甲は、依頼する認定基準の区分を長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査依頼書（以下「依頼書」という）に明記しなければならない。

2 甲は、規程に従い、依頼書ならびに技術的審査に必要な図書を乙に提出しなければならない。

3 甲は、乙が提出された書類のみでは技術的審査を行うことが困難であると認めて請求した場合は、乙の技術的審査業務の遂行に必要な範囲内において、引受承諾書に定められた業務の対象（以下「対象住宅」という）の計画、施工方法その他必要な情報の追加書類を双方合意の上定めた期日まで遅滞なくかつ正確に乙に提供しなければならない。

4 甲は、規程に基づき算定され引受承諾書に定められた額の手数料を、第4条に規定する日（以下「支払期日」という。）までに支払わなければならない。

5 甲は、乙の技術的審査において、対象住宅の計画に関し乙がなした認定基準への是正事項の指摘に対し、双方合意の上定めた期日まで速やかに依頼図書の修正又はその他の必要な措置をとらなければならない。

（乙の責務）

第2条 乙は、法及びこれに基づく命令によるほか規程に従い、公正、中立の立場で厳正かつ適正に、技術的審査業務を行わなければならない。

2 乙は、引受承諾書に定められた第3条に規定する長期優良住宅建築等の認定に係る技術的審査の適合証（以下「適合証」という）を交付し、又は適合証を交付できない旨を通知する日（以下「業務期日」という）までに行わなければならない。

3 乙は、甲から乙の業務の方法について説明を求められたときは、速やかにこれに応じなければならない。

（業務期日）

第3条 乙の業務期日は、次に定める日とする

(1) 型式認定・製造者認証住宅 (イ) 一戸建ての住宅 契約日から7日以内 (ロ) 共同住宅等 契約日から10日以内。

(2) 木造住宅 (イ) 一戸建ての住宅 契約日から21日以内 (ロ) 共同住宅等 契約日から25日以内。

2 乙は、甲が第1条及び第6条第1項に定める責務を怠った時、その他不可抗力により、業務期日までに業務を完了することができない場合には、甲に対しその理由を明示の上、業務期日の延期を請求することができる。

3 甲が、乙にその理由を明示し書面でもって業務期日の延期を申し出た場合で、乙がその理由が正当であると認める場合には、乙は業務日の延期をすることができる。

4 第2項及び第3項の場合において、必要と認められる業務期日の延期その他の必要事項については甲・乙協議して定める。

（手数料の支払期日）

第4条 甲の支払期日は、引受承諾書の交付時とする。

2 甲と乙は、別途協議により合意した場合には、他の期日を取り決めることが出来る。

3 甲が、第1項の支払期日までに支払わない場合には、乙は、適合証を交付しない。この場合において、乙が当該適合証を交付しないことによって甲に生じた損害については、乙はその賠償の責めに任じないものとする。

（手数料の支払方法）

第5条 甲は、手数料規程に基づく手数料を、前条の支払期日までに、現金により納入するものとする。

2 甲と乙は、協議により合意した場合には、別の支払方法をとることができる。

（適合証交付前の変更依頼）

第6条 甲は、適合証の交付前までに甲の都合により対象建築物の計画を変更する場合は、双方合意の上定めた期日まで速やかに乙に通知するとともに、変更部分の技術的審査関係図書を乙に提出しなければならない。

2 乙が、前項の変更を大規模なものと認めた場合にあっては、甲は、当初の技術的審査の依頼を取り下げ、別件として改めて乙に技術的審査を依頼しなければならない。

3 前項に規定する依頼の取り下げがなされた場合は、次条第2項の契約解除があったものとする。

（甲の解除権）

第7条 甲は、次の各号のいずれかに該当するときは、乙に書面をもって通知してこの契約を解除することができる。

(1) 乙が、正当な理由なく、技術的審査業務を第3条第1項に定める業務期日までに完了せず、又その見込みのない場合

(2) 乙がこの契約に違反したにつき、甲が相当期間を定めて催告してもなお是正されないとき



- 2 前項に規定する場合のほか、甲は、乙の業務が完了するまでの間、いつでも乙に書面をもって依頼を取り下げる旨を通知してこの契約解除することができる。
- 3 第1項の契約解除の場合、甲は、手数料が既に支払われているときはこれの返還を乙に請求することができる。また、甲は、その契約解除によって生じた損害について、その賠償の責めに任じないものとする。
- 4 第1項の契約解除の場合、前条に定めるほか、甲は、損害を受けているときは、その賠償を乙に請求することができる。
- 5 第2項の契約解除（依頼の取り下げ）のうち、乙は、手数料が既に支払われているときはこれを甲に返還せず、また当該手数料がまだ支払われていないときはこれの支払を甲に請求することができる。甲は、既に支払った手数料が過大であるときは、その一部の返還を乙に請求することができる。
- 6 第2項の契約解除の場合、前項に定めるほか、乙は、損害を受けているときは、その賠償を甲に請求することができる。

（乙の解除権）

第8条 乙は、次の各号のいずれかに該当するときは、甲に書面をもって通知してこの契約を解除することができる。

- (1) 甲が、正当な理由なく、第4条第1項に定める支払期日までに支払わない場合
  - (2) 甲がこの契約に違反したことにつき、乙が相当期間を定めて催告してもなお是正されないとき
  - (3) 甲の責めに帰すべき事由により業務期日に適合証を交付することができないとき
- 2 前項の契約解除のうち、乙は、手数料が既に支払われているときはこれを甲に返還せず、また当該手数料がまだ支払われていないときはこれの支払を甲に請求することができる。また、乙は、その契約解除によって甲に生じた損害について、その賠償の責めに任じないものとする。
  - 3 第1項の契約解除の場合、前項に定めるほか、乙は、損害を受けているときは、その賠償を甲に請求することができる。

（乙の免責）

第9条 乙は、技術的審査を実施することにより、甲の依頼に係る住宅が建築基準法及び住宅の品質確保の促進等に関する法律並びにこれらに基づく命令及び条例の規定に適合することを保証しない。

- 2 乙は、技術的審査を実施することにより、甲の依頼に係る住宅に瑕疵がないことを保証しない。
- 3 乙は、甲が提出した技術的審査依頼関係図書に虚偽があることその他に事由により、適切な技術的審査業務を行うことができなかつた場合は、当該技術的審査業務の結果に責任を負わないものとする。

（所管行政庁への説明）

第10条 乙の行う技術的審査業務は、法第6条第1項の所管行政庁の認定の円滑化を図るために事前に行うものであることから、乙は、関係所管行政庁から説明を求められた場合には、当該事案にかかる技術的審査の内容、判断根拠その他の情報について、当該所管行政庁に説明することができるものとする。

（秘密保持）

第11条 乙は、この契約に定める業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己に利益のために使用してはならない。

- 2 前項の規定は、以下に掲げる各号のいずれかに該当するものには適用しない。
  - (1) 既に公知の情報である場合
  - (2) 甲が、秘密情報でない旨書面で確認した場合

（別途協議）

第12条 この契約に定めのない事項及びこの契約の解釈につき疑義を生じた事項については、甲及び乙は信義誠実の原則に則り協議の上定めるものとする。